

愛知スキー協通信 No.306

発行：新日本スポーツ連盟 愛知スキー協会

2020年 8月1日

〒460-0011 名古屋市中区大須 1-23-13 TEL052-201-4801(Fax 共)

e-mail:aichiskikyokai@yahoo.co.jp

http://aichiskykyou.yukigesho.com/



編集：ぶなの木 スキークラブ

「一緒にスキーを楽しみたいのですが

その距離感は、どれぐらいで、

あなたは

良いですか？」



文責 愛知スキー協理事長・技術部長兼任 寺田 康男
(みんなで、一つ上の指導員を目指そうプロジェクトメンバー)

上の問いかけは、クラブを大きくしたい人が、どれだけいるかと、今どれだけ愉しくて、それをいつまで続けたいかに、関わる質問です。

私の持論ですが、クラブを拡大したい人は、変わりもん以外の何物でもないと思っています。「クラブを大きくしたい人いる？」これを聞くと「みんな増やしたいと、思っているのに決まっているじゃない!」「増えないだけで」といつも通り大きな声を出して言うのは、浅井さんだけです。貴重で、有難い、お言葉ですが……。いつまでも続けたいのなら必須条件ですが……。

私は変わりもんですから、それぞれの、クラブに相応しい、増え方をしてほしいと思っていますが

「めんどくさくなるのがわかりきっているのに」簡単に声を出せる理事はそんなにはいません。

どのクラブも、同じだと思います。議題にされると、渋々と語りますが、その根本に、組織上の地位と、どれだけ関わる覚悟があるのかとソーシャルディスタンスで安全な距離感しだいだと思います。

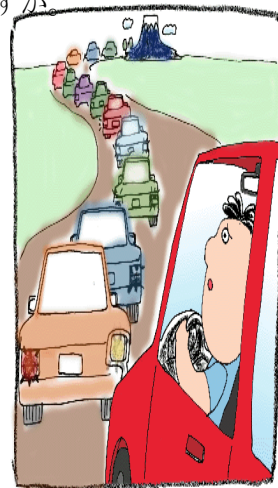
ところで、クラブの中であなたは何人仲良しがいれば、楽しいですか？ いなくても楽しめますか？「いなくても楽しみたいから、クラブに入ったのに」と私なら思います。

距離感とは、人に合う頻度が重要な要素だよ！「週1、月1、年1」そして関わり方と人数「クラブ行事開催時だけ」「ラインならOK」

スキーにあなたが行く時の人数は、車一台以内ですか？（スキーだと普通は3人だね!）それとも、複数台が多いですか？（5人以上同時移動）

「宿で一緒になるから、一人で移動することが、ほとんどです」という人増えていませんか？移動中の時間こそ、交流を深めたいしスキーと人生の為に安全に移動したいし、貴重な空間で共有出来てこそ楽しさに続くロードだと思います。コロナウイルス感染対策の霧に紛れ込んで、距離感見失っていませんか？うつらない安全な距離感ばかりで、

楽しさがうつり易い距離感 迷わないで 考えて行動してください！



愛知スキー協定期総会

19名の代議員参加で方針と方向性を確認して終了

7月5日（日）午後1時15分から、労働会館本館2階会議室で愛知スキー協第49期定期総会が開かれました。例年クラブ員数によって代議員数を決めていましたが、今年はコロナ感染予防のため、代議員を各クラブ2名に限って開催しました。

まず、資格審査委員・選挙管理委員など大会役員を選出し議長は澤田さんになりました。最初に新日本スポーツ連盟愛知県連盟理事長の大塚さんが「スキー協は新スポ連の中で長い歴史がある。楽しく長く続けて行くことを念頭に活動して欲しい」と来賓挨拶されました。次に、全国スキー協理事長の小川さんからのメッセージも読み上げられました。

資格審査委員から代議員定数22名、出席19名で、総会は成立していると報告があり、議案提案、各部、各クラブの活動報告の後、2つの分散会に分かれて要求に対する具体的な方針について意見を出し合いました。分散会の話し合いは楽しく、内容も1年前より進んだとの感想もありました。その後全体討論に移り、提案された議案は拍手で採択されました。「温暖化ストップ」特別決議は脱原発、再生エネルギーの活用など盛り込む、文案に関しては役員一任ということになりました。

次期理事の選挙は提案された理事が全員信任され、その場で第1回理事会を開き、理事長：寺田康男に、副理事長：東雅夫 澤田安利 永田政広の3名に、事務局長：浅井千恵に、事務局次長：加藤真理子 安藤洋子の2名に、理事：三宅幸一 水谷啓子 大城敏雄 堀木幹夫 大森和彦 首藤秀一 寺田康平 島田二郎の8名に、会計監査：米村幹雄の各氏となりました。

なお、議案は愛知スキー協通信第305号（7月号）をご覧ください。

深雪スキークラブ総会



如意寺の前で記念撮影

6月21日（日）、東海市のしあわせ村で第42回総会を開きました。

最近午前中は会場近くの名所・旧跡巡りをして、午後議事という日程です。今年は知多四国88ヶ所巡のうち知多市の6ヶ所をお参りしました。16名の参加。天気も良く、コロナ禍での自粛生活を抜け出して久しぶりの外出です。

12時、東海市しあわせ村へ戻り、広い会場にコロナ対策で離れて座り、豪華なお弁当で昼食。1時から議事にはいり、来賓として寺田理事長が参加し挨拶を受けました。出席は19名、提案された議案は原案どおりすべて可決し、クラブのスタッフは昨年と同じで会長に児玉さん他7名を選出しました。

高齢者でも楽しめるようなスキーを研究する必要がある、深雪で技術部会の開催を検討しようとの意見が出されました。またクラブ員以外の方がクラブ行事に参加する場合、クラブ員と参加費の差をつけるか、付けないか、また、差をつけるならいくらにするかで議論になり、「クラブに入った方がお得よ」がクラブ員勧誘の一方法だということで、クラブ員と員外で参加費に差をつけることになりました。

その後、出席者が近況を報告し、欠席の方のハガキで近況を知り交流を深めました。静岡県伊東市のクラブ員もわざわざ総会にかけつけるなど和気あいあいの雰囲気でした。（浅井）

ぶなの木スキークラブ総会

6月28日（日）午後1時～3時半、ズームで総会を開きました。関西・関東・四国と遠くにいるクラブ員もこれならと33名が参加しました。

今年は安全対策強化のため安全対策部とスキー技術レベルアップ担当を新しく作りました。ま

た、山スキーリーダーの質的向上をはかるため、山スキーリーダー会を開き学習する。今期の登山・スキー・山スキー行事は例年通り計画する。コロナ禍における実施の方法は登山団体などの例を参考に、山スキーリーダー会議でクラブの指針を検討し、その指針に基づいて実施する。などを決めました。

コロナ禍で4月からの山スキー行事はほとんど中止になり、会議も開けませんでした。オンラインでの会議で遠くの会員の方とも顔をつきあわせて相談できるようになったのがせめてもの救いです。

緊急決議案として提案した「温暖化ストップ」については総会で一致できなかったため、月例会で学習し、一致点を見つけていくことにしました。(浅井)

直滑降クラブ総会

7月11日(土)、愛知スポーツ連盟事務所(大須)にて、15時～17時の短時間でクラブ総会を実施しました。参加者は8名で、沖縄在住の増田さんも参加していただきました。

先シーズンは雪不足やコロナ対策で残念なことも多いスキー活動であったことを振り返りながら、今年もスキーに出かけたいと話しました。恒例の1月連休行事、北志賀、民宿「昇荘」宿泊行事は、民宿営業が確定しませんが(おばさん高齢化のため)行きたいということです。2月は遠方のスキー場へ行きたい、志賀高原とか白馬八方とかということで、今は外国人が減っている状況なので、「八方」は狙い目であろう、8・9月早い時期であれば宿も取れるのじゃないかということで進めて行こうとなりました。

行事日程は8月下旬ひるがの高原にてテニスツアー、(既に13名の参加確認)23～24日の日程です。11月の望年会は、仕出し形式で米常にて(以前は鍋やオードブルなどツツキ合う感じでしたが)そこは注意してコロナ対策をとればやれるんじゃないかということです。クラブ役員体制は前年同様で、会長は加藤がやることになりました。

クラブ員は減少していて前年より7名減の35名の登録となりました。主な理由は高齢化や怪我など体調不良、連絡不調などです。新しい仲間を迎える努力をしようと話しました。

久しぶりに顔を見せてくれた増田さんは沖縄から用事で10日近く名古屋に来ているようで、ちょうど総会日程が合ったので出席して頂きました。日頃は石垣島で週1歌声、週2で昼間に卓球、週1でバドミントンにて汗を流しているそうです。(加藤)

山スキー用語解説②《山スキー用具》ビンディング

ビンディングの種類はアルペン用とテレマーク用がありますが、ここでは山スキーアルペン用を説明します。

通常のゲレンデ用と異なり、登行するときは斜面を登りやすいようにつま先はスイングし、踵部分はフリーになります。滑降するときは踵部分をロックできるようになっています。

又、斜面の角度に合わせてストッパーをセットして足裏が持ち上がる機構にもなっています。

ビンディングメーカーはデアミール、ダイナフィットTLT、マーカール等があります。

写真はTLTで軽量ということで最近の流行です。スキーブーツのつま先に金具が埋め込まれ、ピンでカニばさみのようにつまんでスイングできるようになっています。

踵をロックすることでゲレンデビンディングを同じようにスキーブレーキがセットされますが、深雪でのスキー埋没や急斜面でのスキー紛失防止のためリシューコード(紐)を併用することもあります。ただ、雪崩遭遇時に身体をスキーで引き込まれるリスクがあり、使用を慎重にしています。

今回は山スキー用ブーツを説明します。(大城記)



「温暖化ストップ！」特別決議

近年降雪量が減り続け、昨シーズンは雪が少なかった上に、シーズン終盤からはコロナ感染予防のためスキー行事の多くが中止になり、本当に残念な年でした。

気象庁がまとめたこの冬（12月～2月）の天候は、平均気温で最高記録を更新、東日本で平年を2.2℃、北陸で2.3℃、東北で1.7℃、北海道で0.7℃上回りました。降雪量は、北日本の日本海側が平年比44%、北陸が7%で最小記録を更新しました。産業革命以降、地球の平均気温は1℃上昇したといわれており、温暖化の危機を実感しているスノースポーツ愛好者として温暖化ストップは緊急の課題です。

温暖化の原因となる温室効果ガスとは、化石燃料などから発生するCO₂（二酸化炭素）が76%と最大ですが、その他にフロンガス類があり、これらはCO₂より温室効果が強いといわれています。

世界のCO₂排出量は1973年から2014年の40年間に2倍以上に増加、国別では中国、アメリカ、インド、ロシアに続き日本は5位です。

昨年12月に開かれた国連気候変動枠組条約第25回締約国会議（COP25）では地球の温度上昇を抑制するための国別目標（NDC）の引き上げを促進する文書が採択されました。ところが排出量上位5ヶ国が具体的提案を示さなかったことからCOP25はその任務を果たせなかったと評価されています。とりわけ日本は温室効果ガス削減目標の引き上げやCO₂排出量の大きい石炭火力発電から脱却する方針を示すことが出来ず、国際社会から厳しい批判を浴びました。

政府は3月、2016年度の大口排出事業者の温室効果ガス排出量を公表しました。気候ネットワークの分析によると、温室効果ガス排出量の50%を124の発電所と工場で排出、また、77発電所の排出量が約3分の1を占め、その半分（日本全体の17%）が35の石炭火力発電所からでした。一方、石炭火力の全体のCO₂排出量は、発電所全体の52.3%と大きく、石炭火力の排出が大きいことが目立ちます。

今年11月、英国でCOP26が開催され、昨年のCOP25で合意出来なかった気温上昇を1.5℃に抑えるための温室効果ガスの野心的削減計画が論議されます。2050年には実質ゼロを目指し、2030年には2010年比で45%削減が求められます。ところが日本の目標は「2013年度比で26%削減」で1990年比に換算すると18%にとどまり、温暖化への危機意識が大きく欠けています。政府は目標の引き上げ、脱石炭について政策強化の具体化に着手する必要があります。「石炭をベースロード電源にする政策を見直し、温室効果ガスの大幅削減を。脱原発・再生可能エネルギー普及を。」の声をスキー関係者とともに大きくあげていきましょう。日本政府にもこの声を届けましょう。

